

JAHER

Japanese Association of Higher Education Research

日本高等教育学会ニューズレター



日本高等教育学会会報

739-8512 東広島市鏡山1-2-2 広島大学大学教育研究センター内

会長あいさつ —大会を終えて—

会長 天野 郁夫

統合移転を終えたばかりの広島大学キャンパスで開かれた第一回大会は、好天にも恵まれ、盛会裡に幕を閉じた。設営や運営に尽力された広島大学大学教育研究センターの、有本堂会員をはじめとする関係者の方々に心より感謝したい。

第一回の研究大会とあって、発表申込者は、大会参加者はどうか、学会紀要は間に合うのか、気になることばかりだったが、すべては杞憂に終わった。約200人の参加者は、会員数300人余からすれば望外の数というべきであり、発表件数も40件をこえ、あわてて部会の数や教室の数を増やさなければならなかった。部会数が多すぎて、聞きたい発表が聞けないという、嬉しい苦情も耳にした。来年度はこうした「実務」をふまえて、参加者の満足度が高まるよう、大会運営のあり方に改善を加える必要があるだろう。

掉尾をかざるシンポジウムにはマーチン・トロウ教授の出席をおおげ、佐藤禎一文部次官、喜多村和之国立教育研究所研究部長という最高の顔ぶれで、ユニバーサル化をめぐる、実のある討議をすることができた。会場にあふれるほどの参加者であり、高等教育の将来への関心の強さをうかがわせた。

自由研究発表の内容については、多くの参加者から高い評価をいただいた。これほど面白いテーマの、内容のある発表の多い学会は珍しいという声も聞いた。それだけ、高等教育については、切実な問題が多いということなのだろう。高い評価と、その基底にある強い期待に応えられるよう、今後の学会運営をはかっていきたい。

まずは成功裡に終わったとはいえ、会員諸氏の側からすれば、不手際や改善を要する点も少なくないに違いない。理事会や運営委員会でもすでに、反省的な検討を進めているが、忌憚のない意見を寄せていただければ幸いである。

目次

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 会長あいさつ 2. 大会関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一回大会開催校（広島大学）より：第一回大会を終えて ・ 次回大会開催校（筑波大学）より：第二回大会を引き受けて ・ 大会発表要旨集録の販売について 3. 会長並びに理事選挙について <ul style="list-style-type: none"> ・ 会長並びに理事選挙の日程 ・ 日本高等教育学会 理事選挙規程 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 理事会及び総会報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会の記録 ・ 総会議題 ・ 会計報告 5. 紀要編集委員会より <ul style="list-style-type: none"> ・ 紀要編集委員会からの報告 6. 事務局より <ul style="list-style-type: none"> ・ 会費納入のお願い ・ 新入会員・所属変更・自宅住所変更など |
|---|--|

2. 大会関連

・第一回大会開催校（広島大学）より：

第一回大会を終えて

大会実行委員長

広島大学大学教育研究センター長 有本 章

日本高等教育学会第一回大会は、平成10年5月30日（土）、31日（日）の両日、広島大学教育学部を会場にして開催されました。今年の大会は、当初心配していた天候にも恵まれ、200名を超える参加者を得、盛況の内に閉会することができました。

第一日目は開会式、自由発表、レセプションがそれぞれ予定通りに行われました。特に自由発表では、12部会にわたって43件の自由発表がなされ、今後を担う若手研究者や大学院生の発表も数多くみられ、会場には活気がみなぎっていました。

第二日目は課題研究Ⅰ「大学入試のゆくえ」、課題研究Ⅱ「学士課程教育の展望」、総会、シンポジウム「2008年の高等教育—ユニバーサル化への道」、閉会式が行われました。課題研究Ⅰ・Ⅱおよびシンポジウムでの各報告に対しては、フロアから多くの質問や意見が出され、活発な議論が展開されました。特にシンポジウムでは、定員140人の102号教室が会員以外の方々を含め160人のオーディエンスで溢れる盛況ぶりでありました。この二日間の大会は、高等教育の方向性が模索される節目の時点にあつて、高等教育の研究・政策・実践の裏りある統合を目指した活動への課題が意識され、共有され、高等教育研究の一層の必要性が会員間に自覚的に認識された有意義なものとなったのではないかと考えております。

必ずしも交通の便がよくないにも拘わらず、多くの方にご参加・ご発表をいただき、心より感謝申し上げます。また、提案・司会をこころよくお引き受けくださった先生方にも、心より御礼申し上げます。

なお、大会が予想以上の盛会裏に終了したのは、一重に熱心に協力していただいた学内外の皆様のお陰であり、ここに心より感謝申し上げます。

・次回大会開催校（筑波大学）より：

第二回大会を引き受けて

筑波大学大学研究センター長 山本眞一

このたび、日本高等教育学会の第二回大会を、来年5月23日（日）、24日（月）の二日間、筑波大学（東

京地区キャンパス）で引き受けさせていただくことになりました。

昨年の設立総会、今年第一回大会と日を追って盛り上がりを見せるこの学会の、次回の大会開催に向けて、責任の重大性と成果の期待に身の引き締まる思いです。大会の成功のため微力を尽くさせていただきます。

筑波大学大学研究センターは、1986年に設置されました。国立大学では、広島大学の大学教育研究センターに次いで二番目のものです。以来、AT TOKYOのメリットを生かしつつ、高等教育研究やその普及活動に努めてまいりました。また昨年は、全国のこの分野に先駆けて外部評価を実施し、現在、その結果に沿って今後の改革・発展のプランを練っているところです。

折しも6月末には、大学審議会の中間まとめも公表され、大学改革はいよいよ具体的なことがらに拡大してまいりました。同時に、18歳人口減の影響も現実のものとなってきています。他方、21世紀は知識経済の時代とも言われており、大学の役割は一層大きなものになることが期待されます。このような変化の時代であればこそ、高等教育研究を通じて複雑多様な大学システムというものの本質に迫りたいものです。

当研究センターは、旧東京教育大学の跡地に位置し、東京駅はじめ都心主要ターミナルから至近の距離にあり、会員の皆さんにとって大変便利な場所にあります。反面、筑波大学のメインキャンパスから遠く離れているため、通常の大学のような施設の充実に難があることは否定できません。しかしこれを、好立地と熱意でカバーさせていただきたいと考えておりますので、どうかご理解のほどよろしくお願いいたします。来年5月、皆さんにお会いできることを心待ちにしております。

・大会発表要旨集録の販売について

第一回大会の発表要旨集録に残部があります。1冊1,500円にて頒布します。購入ご希望の方は、現金書留にて1,500円を大会実行委員会までお送りください。なお、大会実行委員会に直接お越しの場合には、1冊1,000円で販売いたします。

第一回大会 大会実行委員会

〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2

広島大学 大学教育研究センター内

（文責：第一回大会 大会実行委員会）

3. 会長並びに理事選挙について

・会長並びに理事選挙の日程

- 12月 理事選挙規程に基づく選挙管理委員会の発足
選挙管理委員会による選挙権と被選挙権の認定と会員への広告
- 3月 郵送による投票と新理事への依頼
- 4月 新理事の確定
新理事の互選による新会長の選出
- 5月 総会

・日本高等教育学会 理事選挙規程

1. 選挙における選挙権及び被選挙権は、選挙をおこなう学会年度の9月末日までに、少なくとも前年度の会費を納入している者にあるものとする。新入会員については、同日までに入会した者とする。
2. 選挙は選挙管理委員会がこれを統括する。選挙管理委員会は理事会の議を経て会長が委嘱する。
3. 投票は無記名投票で行い、被選挙人の10名連記とする。投票は郵送で行う。
4. 選挙規程の改正については、理事会の議を経て、総会で決定する。

本選挙規程は、会則第8条に基づき1998年7月から施行する。

4. 理事会及び総会報告

・理事会の記録

第3回理事会 (11月8日 広島大学大学教育研究センター)

出席者：天野郁夫、荒井克弘、有本章、市川昭午、馬越徹、江原武一、大崎仁、高橋靖直、原康夫、山野井敦徳、山本眞一

1. 第一回大会について
2. シンポジウムの課題と構成について
3. 課題研究について
4. ニュースレターのデザインについて
5. 紀要創刊号の編集について
6. 入会の承認について
7. その他

第4回理事会 (3月17日 東京大学教育学部)

出席者：阿部美哉、天野郁夫、荒井克弘、有本章、大崎仁、梶田叡一、金子元久、喜多村和之、高橋靖直、原康夫、矢野眞和、山野井敦徳、山本眞一

1. 第1回大会のプログラム編成について
2. 紀要創刊号の編集について
3. 入会の承認について
4. その他

第5回理事会 (5月30日 広島大学教育学部)

出席者：麻生誠、阿部美哉、天野郁夫、荒井克弘、有本章、市川昭午、馬越徹、江原武一、大崎仁、金子元久、喜多村和之、高橋靖直、原康夫、山野井敦徳、山本眞一

1. 第1回大会について
2. 1997年度決算報告について
3. 1998年度予算案と事業計画について
4. 紀要投稿規程について
5. 次回大会校について
6. 入会の承認について
7. その他

第6回理事会 (7月10日 東京大学教育学部)

出席者：天野郁夫、荒井克弘、有本章、市川昭午、金子元久、原康夫、矢野眞和、山野井敦徳、山本眞一

1. 理事選挙規程について
2. 紀要の献本先について
3. 第二回大会の日程について
4. 研究課題について
5. 紀要第2集の編集方針について
6. 事務局長の出張費について
7. 入会の承認について
8. その他

・総会議題 (5月31日 広島大学教育学部大会議室)

1. 1997年度決算報告
2. 1998年度予算案
3. 1998年度事業計画案
4. 次期大会校について
5. その他

※総会で決まった内容については、このニュースレターの中にそれぞれ報告されていますので、該当の記事をご覧ください。

・会計報告

1997年度決算報告（1997年7月19日～1998年4月30日）

			(単位 円)
収入			
費目	1997年度予算	1997年度決算	増減
発起人拠金	200,000	200,000	0
会費収入	2,000,000 (10,000*200)	2,820,000 注1 (10,000*282)	△820,000
利子収入	0	1,441	△1,441
寄付・雑収入	0	50,000	△50,000
計	2,200,000	3,071,441	△871,441

			(単位 円)
支出			
費目	1997年度予算	1997年度決算	増減
設備・備品費	0	19,372	▼19,372
印刷費	200,000	450	△199,550
消耗品	50,000	69,287	▼19,287
通信費	150,000	145,840	△4,160
謝金・礼金	180,000	187,200	▼7,200
会合費	160,000	42,000	△118,000
紀要刊行費	1,300,000	873,000	△427,000
大会運営費	100,000	250,000 注2	▼150,000
予備費	60,000	0	△60,000
次年度へ繰越	0	1,484,292	△1,484,292
計	2,200,000	3,071,441	△871,441

注1：会費納入率は96%（293名のうち282名）

注2：1998年度第一会大会運営費が1997年度に支出されているため

1998年度予算（案）

収入見込み

会費収入	2,400,000
前年度繰越金	1,484,292
計	3,884,292

支出見込み

設備・備品費	0
印刷費	150,000
消耗品	100,000
通信費	350,000
謝金・礼金	250,000
会合費	100,000
紀要刊行費	1,300,000
大会運営費	150,000
予備費	1,484,292
計	3,884,292

5. 紀要編集委員会より

・紀要編集委員会からの報告

紀要編集委員長 矢野真和

関係各位のご協力により、何とか日程通りに紀要を刊行することが出来ました。何はともあれ、皆様に厚く御礼申し上げます。

教育改革は、留まることを知らない勢いにあります。そして大学は、その改革の波頭に立たされています。波に巻き込まれると、重いはずの身体も木の葉のように舞い上がります。かつての改革波に動じなかった大学と同じ大学だとは思えない雰囲気です。やっとな山が動いた、と喜ぶむきが多いかもしれません。

しかし、高等教育を軽々しく語るのは、また危険なことだと私は思っています。事実を踏まえた実のある議論が最も大切です。市場と政府の対立（あるいは選択）という図式だけが強調される時代の流れの中で、存在が問われているのは専門家の役割ではないでしょうか。

高等教育学会は、いうまでもなく、専門家の集団であるはずですが、本物の波と偽物の波を識別して、重い言葉を発することが学会に課せられた使命だといえるでしょう。その使命を体現させるのが、学会の大会であり、紀要です。会員の皆様の力を頼りに、少しでも優れた紀要にしたいと思っております。

第2集の投稿論文締め切りは、10月15日です。沢山の力作が投稿されるのを楽しみにしています。なお編集委員会で、次の点が確認されましたので、お知らせいたします。

- 1) 投稿規定に従った原稿を送付すること（第1集の論文を参照下さい）。
- 2) 投稿時点に、会員であること。
- 3) 論文の査読は、編集委員のみならず、内容に応じて広く会員にも依頼すること。
- 4) 論文の「抜き刷り」は、印刷しないこと。
- 5) 「書評」コーナーの設置は、検討中だが、第2集では設けないこと。

以上です。ご協力のほどよろしく願いいたします。

なお、その他投稿規定や論文送付先は紀要第1集をご参照下さい。

6. 事務局より

・会費納入のお願い

現在、1998年度年会費10,000円の納入を受け付けております。未納入の方は、以前お送りしました郵便振替用紙か郵便局備え付けの普通払込書用紙をご使用のうえ、下記振込先までお送りください。

口座番号 01320-9-2987

加入者名 日本高等教育学会事務局

(文責：事務局)

・新入会員・所属変更・自宅住所変更など

《新入会員 (98/2~98/7) 》

氏 名	〒	住 所	電 話	所 属
-----	---	-----	-----	-----

氏 名 〒 《住所・所属変更 (98/2~98/7)》 住 所 電 話 所 属

日本高等教育学会ニュースレター No.2

1998年8月20日発行

発行 日本高等教育学会事務局

事務局長 有本 章

事務局 広島大学大学教育研究センター内

住所 〒739-8512 東広島市鏡山一丁目2番2号

Tel : 0824-24-6241, 6242

Fax : 0824-22-7104

e-mail : hrarbu@ipc.hiroshima-u.ac.jp

fmik@ipc.hiroshima-u.ac.jp